令和３年度　比内支援学校　全校研究について

１　研究主題

児童生徒が主体的に課題を解決する力を育てる単元づくり ～地域に展開する学習を通して～ （１年次）

２　研究主題設定の理由

（１）　過年度の研究から

令和元年度、２年度の２年間、『児童生徒の「やりたい」と「どうしてだろう」と「なぜなら」がつながる授業づくり～主体的・対話的で深い学びの視点を生かして～』の研究主題の下、授業づくりについて研究に取り組んだ。過年度の研究を通して見いだされた「授業づくりの５つのポイント」を活用して授業づくりに取り組む中で、主体的・対話的で深い学びの視点を生かした授業づくりを可能にする新たな要点をいくつか見いだすことができた。今年度もこれらを活用した授業づくりに取り組み、より一層授業の質の向上を目指していく。一方で、資質・能力を育むために計画的に学習を進めることや、児童生徒の成長を定期的に見取ること、その成長に合わせて学習を発展させていくこと等の課題が挙げられた。これらの成果と課題から、授業の質の向上とともに、資質・能力を確実に身に付けていくためには、単元づくりから取り組むことが必要であると考えた。

（２）　学習指導要領から

学校と社会が連携・協働しながら新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けてカリキュラム・マネジメントの実現が大切であることが示されている。また、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加え、資質・能力を育む効果的な指導を行うことの重要性について示されていることから、単元や題材という時間のまとまりでそれらの構成を検討したり、児童生徒の変容を見取りながら授業改善したりすることが必要だと考える。

（３）学校の現状と児童の実態から

本校は昭和４９年に開校し今年度で創立４８年目となる。全校児童生徒数は昨年度と同じ１１４名（小学部２３名、中学部３７名、高等部５４名）である。児童生徒については、障害の多様化の傾向にあり、情緒の安定やコミュニケーション、集団参加に課題がある児童生徒や、各学部数名ずつであるが、生活全般に介助を要する児童生徒も在籍している。広大な農場、開校当時から本校に理解のある地域のよさ、新校舎の機能という本校の特色を生かした教育活動を計画的に展開し、定期的に児童生徒の変容を見取りながら学習内容を発展させることで幅広い実態の児童生徒が自立的に社会参加できる力を育む取組を推進し、「本物の力」を育成できると考える。

以上のことから、今年度の研究主題を設定した。これまで取り組んできた主体的・対話的で深い学びの視点を生かした授業づくりを基盤に、単元や題材というまとまりの視点から授業づくりに取り組み、それらの実践を通して、児童生徒の資質・能力を育み、主体的に課題を解決する力を育て

るための単元づくりの要点を明らかにしたい。

３　研究の目的及び目標

研究の目的は、単元の設定を工夫したり、児童生徒の変容を見取るための評価の方法を検討したり、その結果を受けて単元を改善したりして、児童生徒が主体的に課題を解決する単元づくりの要点を明らかにすることである。そのため、次のことを目標に設定する。

・児童生徒の実態把握から、身に付けたい資質・能力を明らかにし、各教科等との関連付けを図り、より有効な単元展開、授業展開を検討する。

・資質・能力を身に付けたり、それらを活用した課題解決を図るために、単元の中にどんな活動をどのように配置するか、どんな課題を設定するか、効果的な方法を探り、単元づくりに反映させる。

・児童生徒の変容を見取り、児童生徒自身が成長を実感するとともに、単元や授業の改善を図るために、あらかじめ評価の視点や評価の時期を設定した上で評価を実施する。

４　研究仮説

過年度の研究で見いだされたポイントや要点を活用しながら、地域に展開する学習やそれらを含んで構成される各教科等を合わせた指導の単元づくりに取り組む。単元の内容や時間のまとまりの中で学習活動や課題設定に工夫を講じたり、学習の達成状況を評価するために、評価の視点を定め、評価の時期や場面を計画し、児童生徒の変容を見取って単元を改善したり授業の改善に生かしたりする。それらを通して、授業の質が向上し、児童生徒が主体的に課題を解決する力を育てることができるだろう。

５　研究の内容と方法

（１）　全校授業研究会及び公開研究会に向けた単元づくりと単元の改善及び授業づくりと授業の改善

・児童生徒の実態把握から、身に付けたい資質・能力を明らかにするとともに、評価の視点を明確にし、単元づくりや授業づくりに取り組む。また、単元という時間のまとまりで児童生徒の変容を見取るために単元づくりシート等を用いて可視化し、いつ、どんな学習活動を設定するか、どんな評価を行うか等、学習活動の計画のみに留まらない単元検討会を行う。

・「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた単元づくりや授業づくりをするために、過年度の研究を通して得たポイントや要点を活用する。また、計画的に児童生徒の変容を見取り、単元や授業の改善を行う。

（２）　単元や授業を通した意図的な課題解決場面の設定

・単元の内容や時間のまとまりの中で、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか等を単元づくりの段階で検討し、児童生徒が解決すべき課題を意図的かつ効果的に設定する。

・課題解決場面での児童生徒の発言や行動から変容を見取り、適切に評価したり必要に応じて単元や授業の改善を図ったりする。

（３）　年間指導計画検討会の実施と各学年の計画の共有

・「各教科等を合わせた指導」の学習内容についての検討に当たり「教科別の指導」等の実施時期や内

容について関連を確認し、その単元で扱う主な教科の目標や内容について確認する。また、他学年や他学部との効果的な共同学習を推進するために、各学年の検討用紙を全校で共有するための期間を設ける。

（４） 職員研修の実施

・児童生徒に効果的に資質・能力を育むための単元づくりや、「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした授業づくり、授業の質の向上に向けた研修会を行う。

（５） 一人一授業研究会の実施

・本時において、どのような力を付けるのか、そのためにどのような学習活動を展開するのかを、単元や小単元という時間のまとまりから検討して授業づくりに取り組み、全職員が授業を提示する。

・評価の視点を明確に提示して児童生徒の変容を見取る。また、児童生徒に対しては、めあてを工夫して提示したり、振り返りの時間を確保したりして学習内容の定着を図る。

・授業者の希望に沿ってあらかじめ指導助言者を決定することで確実に助言を得られる体制を整える。また、学部職員の参観者をあらかじめ割り当て、授業者、参観者双方に有意義な研修となるようにする。

６　研究計画

〈１年次〉

<table>
<tr><th>月</th><th>全体・学部</th><th>段階</th><th>研究活動の評価の観点</th></tr>
<tr><td>4</td><td>・全体研究の立案
・年間指導計画検討会①７日②26 日
・全校研究会①14 日（研究の概要提示）</td><td rowspan="2">計画</td><td rowspan="2">・研究の目的の達成に向け、全体研究での取組が学部研究に適切に反映され、各学部に周知されているか。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>・年間指導計画検討会②13 日
・全校研究会②27 日（学部研究の概要提示）
・研修日①７日</td></tr>
<tr><td>6
7
8</td><td>◎一人一授業研究会の開始
（令和３年６月から令和４年２月まで）
・職員研修会　７月 30 日
・年間指導計画検討会　８月 19 日
・研修日②６月９日、③８月 25 日</td><td rowspan="3">実践
・
評価</td><td rowspan="3">・単元の構成や課題設定を工夫したり、評価の場面や方法を工夫したりしながら資質･能力を育成するための単元づくりや授業づくりをしているか。
・単元づくりのシート等を活用しながら課題解決の場面を意図的に設定したり、その結果を評価し単元や授業を改善したりしているか。
・「授業づくりの５つのポイント」や「授業づくりの要点」を意識した授業づくりをしているか。
・「各教科等を合わせた指導」において、「各教科等」のどのような「目標」や「内容」を含んでいるのか授</td></tr>
<tr><td>9
10
11</td><td>・第一回全校授業研究会７月 13 日（小学部）
・第二回全校授業研究会７月 15 日（中学部）
・第三回全校授業研究会９月 16 日（高等部）
・研修日④10 月 13 日、⑤11 月 24 日</td></tr>
<tr><td>12</td><td>・公開研究会３日
・研修日⑥８日
・全校研究会③16 日
（研究の進捗状況の確認）
・研究紀要の原稿執筆</td></tr>
</table>

			業者で共有したり児童生徒が何をどのように学び何が身に付くのか明らかにしたりして授業づくりに臨んでいるか。（目標や指導内容に表れているか。） ・授業のめあてが適切に設定され、児童生徒に提示されているか。 ・めあてから活動内容、まとめ、振り返りがつながっているか。
1	・年間指導計画検討会④12 日 ・研修日⑦26 日	まとめ	・児童生徒の変容とその要因が明確になっているか。 ・成果や課題、次年度への方向性が仮説に基づいてまとめられているか。
2	・全校研究会④２日 （研究の成果と課題報告） ・年間指導計画検討会９日 ・研究紀要の印刷・丁合・製本		
3	・研究紀要の完成・配付		